

第31回発達診断セミナー 〈心理専門職コース〉

主催 人間発達研究所
後援 滋賀県（依頼中）
大津市（依頼中）

発達診断セミナーは、心理専門職が発達診断・発達相談や関連する諸科学について系統的に学ぶセミナーです。今回の第IVシリーズでは、発達診断が、子どもや障害のある人たちの発達や教育にどのように寄与していけばいいのかを学ぶことに合わせ、厳しさを増す情勢の中で、心理職として果たすべき役割について考える機会になることを願い、企画をしました。

今回のセミナーでは、6、7歳頃の時期（3次元可逆期）の特徴をおさえつつ、学齢期の体験の捉え方やその表現の発達や学童保育での実践報告をふまえて深めていければと考えています。この時期は発達のには系列的な認識や概念形成など就学への基礎的な力が芽生える頃であり、9、10歳の節目とも関わるという意味で重要な時期です。就学前教育や支援学校における教育の意味を考える際にもこの時期の子どもの発達や集団を学ぶ事には大きな意味があると思います。

発達診断・発達相談に携わるみなさんのご参加をお待ちしています。

テーマ 3次元可逆期（6, 7歳頃）の発達と障害

対象 発達診断・発達相談に携わる方

日程 2018年11月10日（土）・11日（日）

会場 財団法人 滋賀県人権センター「光荘」

大津市におの浜4丁目1-14（電話077-522-8243）

参加費 人間発達研究所会員 10,800円（10,000円+税）

人間発達研究所会員25歳以下 5,400円（10,000-5,000+税）

一般 12,960円（12,000円+税）

定員 100人

申込み 専用申込用紙、または右の申込受付サイトより。

締切り 11月2日（金）消印有効



問い合わせ 人間発達研究所

〒520-0052 滋賀県大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階

TEL/FAX 077-524-9387 E-mail j-ih63su@j-ihd.com

URL <http://www.j-ihd.com/>

日程

11月10日（土）

9:30 受付開始

10:00 開会

**ゼミⅠ 生後第3の新しい発達の原動力の発生から3次元可逆操作期 における
発達と発達診断**

白石恵理子（滋賀大学教育学部教授）

12:30

昼食休憩

13:30

**ゼミⅡ 生活綴方・作文教育からみる子どもの発達
～生活と表現と集団に注目して～**

川地亜弥子（神戸大学人間発達環境学研究科准教授）

15:30

休憩

15:45

**ゼミⅢ 悩めるあなたは素晴らしい！
——養護学校卒業生の声から——**

古日山守栄（滋賀県立草津養護学校高等部教諭）

17:45

18:15～交流会

11月11日（日）

10:00

**ゼミⅣ 学童保育における子ども達の生活と自分づくりの過程について
～学童保育での実践より～**

竹中真美（大津市青山児童クラブ）

12:00

昼食休憩

13:00

ゼミⅤ 「自己に向き合う」「生き方に悩む」人たちへの支援を考える

中村隆一（立命館大学応用人間科学研究科教授

・人間発達研究所所長）

15:00 閉会

※参加者の講義の録音，撮影は固くお断りいたします。

講義内容

ゼミⅠ 生後第3の新しい発達の原動力の発生から3次元可逆操作期における発達と発達診断

3次元認識を形成しその自由度を高めてきた子どもたちは、人間関係を深め、相手を意識していくなかで、「書きことば」に代表される新しい交流の手段をともなって、生後第3の新しい発達の力を発生・充実させていきます。このゼミでは、生後第3の新しい発達の原動力が発生し、次の階層である9、10歳における発達の質的転換期に向かっていく過程（発達年齢では6,7歳頃）にいる子どもたちが、どのように外界や、「自分」と「他者」をとらえ、関わろうとしているのか、その特徴と発達診断について白石氏より学びます。さらに、この時期に困難を抱える子どもたちの支援や指導のポイントも提起していただきます。

ゼミⅡ 生活綴方・作文教育からみる子どもの発達～生活と表現と集団に注目して～

自分の体験を振り返り、物語ることが可能となっていく6,7歳頃の子どもたちは、生活の中での気付きやその時の気持ち等を様々な方法で表現し始めます。このゼミでは、教育実践研究に取り組まれている川地氏より、学童期の子どもたちの作文や詩といった文章表現やその発達の様相をご報告いただきます。生活綴方（生活体験に基づいた事柄を綴り、完成した作品を読み合い、話し合う過程）を通して、学童期の子どもやその集団は、どのような変容を遂げていくのかについて学びます。

ゼミⅢ 悩めるあなたは素晴らしい！ ——養護学校卒業生の声から——

“守栄先生”のもとには、養護学校（特別支援学校）を卒業した元生徒からの悩みが寄せられます。9,10歳の発達の節目を越えた彼らは、自分や他者を多面的かつ多価的にとらえること（自己形成視や自己客観視）ができるようになったからこそ、生活や仕事に正面から向き合い深く悩むようにもなります。古日山氏は「こうありたい自分」を求める彼らの思いに寄り添いつつ、悩みの中身をともに整理したり、自身の存在価値について一緒に考えたりするというような「生き方支援」を続けておられます。このゼミでは、卒業生の悩みや葛藤の中身を紹介していただきながら、それらをどのようにとらえ、どう支援することが大切なのかを古日山氏より学びます。

交流会（事前にお申し込みください）

毎年、講師や参加者の皆さんが参加され、事務局（関西在住の悩める若手相談員の集合体）も混ざって、仕事のことや発達・療育・保育・教育の事などをわいわい交流する、とても気さくな会です。若手・ベテラン問わず、是非お気軽にご参加ください！

ゼミⅣ 学童保育における子ども達の生活と自分づくりの過程について～学童保育での実践より～

このゼミでは、6、7歳頃の子どもの姿について、学童保育での実践を通して竹中氏にお話しいただきます。この時期、子どもたちは、集団や他者との関係の中で、自分の在り方や立ち位置を考えたりしながら、自己理解を深めていくようになります。この時期に重なる小学校低学年頃の子どもの姿は、どのように仲間との関係を築き、自分づくりをしていくのでしょうか。学童保育という「生活の場」における、小学校低学年頃の子どもの姿をご紹介していただくとともに、彼らがどのように自分たちの生活や集団づくりをしていくのか、また、その中で現場の先生方がどのような実践を展開しているのかについて、ご報告いただきます。

ゼミⅤ 「自己に向き合う」「生き方に悩む」人たちへの支援を考える

このゼミでは、中村氏を講師に、ゼミⅢ・ゼミⅣで報告された実践や事例を、発達理論や発達保障の観点からふりかえるとともに、取り上げられた発達の時期（（発達年齢で6、7歳、すなわち3次元可逆操作）から、“9、10歳の節”、すなわち1次変換可逆操作）の発達相談について、「自己理解」をキーワードに相談の方向性を学びます。

相談支援では、ニーズに対応することが重要な柱となっていますが、ニーズは充足されても、悩みがある、そうした自分づくりの姿を、発達相談という視点からチームでとりくむ「伴走型支援」も、この時期ますます大きな意味をもっているのではないのでしょうか。

●申込方法

- (1) 申し込みは専用申込用紙（払込取扱票）を用い、必ず一人1枚ご使用ください。
- (2) 必要事項をご記入の上、受講料を郵便局からご送金ください。交流会の参加、不参加のご記入もお願いします。現金書留での送付や、申込用紙を利用しての会費の払い込みはご遠慮ください。
- (3) インターネットからも申し込めます。この要綱のQRコードを読み込んでください（受講料の払い込みは銀行口座の案内になります）。
- (4) 申込み締切りは11月2日（金）消印有効です。定員になり次第締め切りますので、特に出張で参加される方はゆとりを持ってお申し込みください。
- (5) 申込み手続きが完了しますと「受付番号」をお知らせします。受付番号は当日の受付に必要です。メールアドレスをご記入の方には、メールでお送りします。
- (6) 宿泊は斡旋いたしませんので、各自でお取りください。
- (7) 昼食は各自ご用意ください。ゴミの持ち帰りにご協力ください。会場の近隣に飲食店もあります（余裕を持ってお出かけください）。

※人間発達研究所会員で25歳以下の方の割引は、1992年4月2日生まれ以降の方が対象です。

※会場の設備が古くなっております。温度調節が可能な服装でお越しください。

●キャンセル

郵送、FAX、メールで人間発達研究所までご連絡ください。キャンセル受付の返信をお送りしますので、必ずご確認下さい。

11月2日（金）まで 全額をお返します。

11月3日（土）以降 申し訳ありませんが返金できません。

●交通のご案内

- ・ JR琵琶湖線「大津駅」より路線バスの利用は、3番乗り場<湖岸経由>石山駅行または<イオンモール草津経由>草津駅西口行乗車、「馬場1丁目」下車（230円）。
「くら寿司」を左折。緑色の建物。バス停より徒歩約3分。
- ・ JR琵琶湖線「膳所駅」よりは徒歩約15分（新快速は止まりません）。
- ・ 駐車場の確保が難しいため、お車でのお越しはご遠慮ください。

